特定非営利活動法人ドリーム組織図

沿革

2001年　任意団体ドリーム　設立

2004年　NPO法人ドリーム　設立

※詳細はHPをご覧下さい。

特定非営利活動法人 ドリーム

〒460-0003

愛知県名古屋市中区錦2丁目13-24先 地下1階31番14号

TEL/FAX 052-231-0350

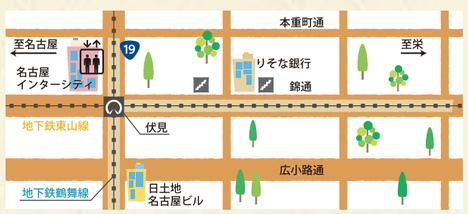
http://npo-dream.org

地下鉄をご利用の方へ

伏見駅地下街へは、東改札口からお越し下さい。
東改札口から出ると、右図のようにそのまま伏見地下街へ繋がっています。

お車、エレベータをご利用の方へ

地上から伏見駅地下街へは、階段しかありません。
りそな銀行すぐの階段を降りて下さい。
エレベーターをご利用になられる方は、右図のエレベーターをご利用下さい。改札口にて駅員に伝え、地下鉄を通り抜けてお越し下さい。



この冊子は2018年度日本郵便の年賀寄附金の助成を受けて製作しました

特定非営利活動法人

ドリーム

脳卒中障害者の生きがいづくり

特定非営利活動法人ドリームとは

NPO法人ドリームは、脳卒中障害者と家族の支援を行うために活動している団体です。
2004年から活動を続け、障害者自らによる社会活動参加の実現、
地域社会への理解促進を目指しています。
地域社会への働きかけの他、当事者への支援や相談、
家族の方への相談などにも対応し、心理面でのサポートや情報提供を行っています。

理　念

方　針

- 当事者の活躍できる場所を創造する
- ご家族へのサポート強化に努める
- より多くの方々へ脳卒中障害に関する情報を提供する
- 多機関との連携を強化し、当事者の思いを社会へ伝える
- 常に変化に対応し、自己成長に努め社会に貢献する

データで見る、脳卒中後遺症患者の生活実態調査

退院1年後から現在の生活について

外出頻度が月4回以下の人 ⇒ 交友関係の減少 **79.4%**

外出頻度が月5回以上の人 ⇒ 交友関係の減少 **53.9%**

交友関係が減少 ⇒ 受け入れがたい後遺症がある **80.9%**

交友関係が変わらない 交友関係が増加 ⇒ 受け入れがたい後遺症がある **60.7%**

外出頻度と交友関係は比例

交友関係と障害受容は比例

つまり

外出頻度・交友関係・障害受容は比例

⇓

どのように外出頻度を増加させるか、
友人・知人といった人間関係を構築するのかが大きなポイント

＝

ドリームの役割・使命

【出典】特定非営利活動法人ドリーム「平成29年 脳卒中後遺症患者の生活実態調査」

ドリームを利用する 脳卒中当事者の今

「充実した今を生きる」

梅北 健一（うめきた けんいち）
発症：脳出血（2003年12月）
障害：1種2級 右半身麻痺・失語症

47歳の時に中国で脳出血を発症。中国の病院では、20日間点滴のみで、日本の病院へ転院し、初めてリハビリを受けた。その頃、手は大きく曲がり胸まで上がった状態で、話すことも出来なかった。ドリームでは、仕事・趣味・仲間と色々なことがプラスになっている。足の裏はいつの間にかフラットな状態になり、話すことも出来る様になった。今では、旅行に行ったり、油絵を描いたり、英会話を習ったり、充実した生活を送っている。

ドリームではパソコン教室の講師としても活躍中

「人生、捨てたもんじゃない」

森山 禮子（もりやま れいこ）
発症：脳出血（2006年10月）
障害：2種2級 右半身麻痺・失語症

62歳の時に脳出血を発症し、右半身麻痺、失語症になった。20年近く勤めた会社を辞めなければいけないことがショックだった。2年後にドリームを紹介され、喫茶店の店員に。“私でも働ける”と感激した。初めは同じ当事者の先輩から教わり、少しずつ色々と出来るようになった。今では、歌の会に参加したり、ミシン教室に参加しバッグや服を手作りしている。脳出血を発症する前とはガラッと変わった人生。これも捨てたもんじゃないですよ！

「大きな衝撃を乗り越えて」

曽我 由利（そが ゆり）
発症：脳梗塞（2009年12月）
障害：2種4級 左半身麻痺

59歳の誕生日を迎えた12月、当初は「単なる疲れかな」と思うも、救急搬送され、脳梗塞と診断を受けた。何よりも自分自身が一番驚いた。点滴をして、車いすに乗り、左手は使えず…左半身機能障害。医師から「左手は押さえる程度しか回復は難しい」と通告され、大きな衝撃を受けた。ドリームでは、同じ脳卒中の仲間がいきいき活動していた。私も自宅で動くのとは違った働き方を知り、左手でできることも少しずつ増え、仲間やお客様との会話を楽しんでいる。

「自分自身と向き合って」

荻野 祐一郎（おぎの ゆういちろう）
発症：脳出血（2015年9月）
障害：1種2級 左半身麻痺・失語症
感覚障害・高次脳機能障害

28歳の時、何の前触れも無く、突然に脳の血管が破れた。10年前に母親も同じ病気をしていて、担当医から「息子さんも気をつけて下さい」と言われていた。しかし、まさか28歳で…後遺症をおった。それから2年間リハビリのみの日々。そんなある日、脳卒中に特化した団体「NPOドリーム」が有る事を知りともに活動をし、同じ後遺症を持った方々と楽しく交流している。活動をする中で、マイノリティーになり外に出るのが怖くなって家にこもるのが一番怖い後遺症だと気づいた。2017年10月には、職場復帰をすることができた。

特定非営利活動法人ドリームの事業紹介

脳卒中の情報を地域社会へ発信する啓発活動や、次世代の若者への脳卒中理解の促進、
当事者・家族への相談事業、小規模作業所運営を展開することで
「脳卒中障害者の生きがいづくり」を目指しています。当団体では、主体性を大事にしており、
当事者の思いや考えを、カタチにすることができます。全ての活動が、
自己の利益のためではなく、社会貢献につながっており、脳卒中を発症したからこそ担える
「社会的役割」を活かして活動しています。

1 相談事業

脳卒中を発症された方のご家族を対象とした無料相談会を実施しています。脳卒中を発症すると、そのご家族も非常に苦しい思いをされます。そんな時、一人で悩む必要はありません。同じ当事者を家族に持つ方が、個別で相談に応じます。

2 講師派遣事業

脳卒中障害者、職員、家族、ボランティアを講師として、様々な依頼に合わせて派遣しています。講師派遣の内容は、当事者の体験談講演や治験モデル派遣、NPO法人や障害者支援に関する講演、体験型授業の実施など多岐にわたります。

教育機関への講師派遣

PT・OT・STといったリハビリ関連の学校や、看護学校へ、職員や脳卒中障害者を講師（治験者）として派遣します。当事者本人からの体験を聞くことができ、各種リハビリの訓練・教育、看護分野での患者理解に活かされています。

社員研修への講師派遣

様々な要望に合わせて、社員研修のための講演をしています。例えば「病院退院後の脳卒中患者の生活とは」、「当事者への自立支援とは」、「地域における脳卒中支援とは」、「NPOや市民活動について」など、幅広い依頼に対応しています。

企業への講師派遣

バリアフリーに関しての講演依頼から、バリアフリー・ユニバーサルデザインの商品開発への協力まで、職員や脳卒中障害者を派遣することで対応しています。多様な企業の要望に合わせて派遣をすることが可能で、企業としては、仕事の依頼自体が社会貢献につながります。

3 出張販売事業

当法人の運営する小規模作業所より、喫茶・フェアトレード・地産地消・授産品のお店を外部へ出店しています。店頭には脳卒中障害者が立ち、接客や商品提供を行います。医療機関や福祉施設・学校・行政・地域のお祭りなど、様々なところへ出張し、脳卒中の啓発活動も同時に担っています。

4 啓発活動

脳卒中に関する情報を地域社会へ発信することで、より多くの脳卒中障害者の方が社会へ参加する機会の創出を目指しています。講演会、交流会、イベントなどで当事者本人の声を届けることで、脳卒中に関する知識向上や地域との連携強化を図っています。

5 インターン・学生の受け入れ

企業の研修、学校の実習、大学における研究協力など行っています。特定非営利活動法人と小規模作業所の両方の側面を学ぶことができます。脳卒中障害者とのコミュニケーションの時間が多く、障害についての理解や当事者の思いを学ぶことができます。

6 脳卒中障害者の家族会運営

脳卒中を発症された方の家族で構成される「家族会」を運営しています。同じ家族だからこその思いを共有し、様々な情報交換、交流会などを実施しています。家族の方々で意見交換し活動していますので、家族の思いをそのまま活動に活かすことができます。

7 小規模作業所の運営管理

当法人では、「小規模作業所ドリーム伏見」の運営管理を行っています。小規模作業所では、脳卒中障害者の就労支援を行うとともに、地域社会のコミュニティの役割を担いながら、仲間づくり・生きがいづくりを目指して活動しています。当作業所は、脳卒中障害者のみを対象とした小規模作業所です。脳卒中障害者は、リハビリやマッサージ、悪天候など、様々な事情により毎日小規模作業所に通うことが困難なケースがあります。そこで、当事業所では週に1～2回程度から通うことのできるシステムを採用しています。

【主な事業】喫茶事業、情報誌事業、フェアトレード事業、教室運営事業

小規模作業所ドリーム伏見とは

脳卒中障害者のみを対象とした小規模作業所です。脳卒中障害者のみが対象で、他の障害（疾病）の人は受け入れておりません。そのため、同じ経験をした人同士のつながりが生まれ、思いが共有され、障害受容の促進が期待できます。作業所での仕事は、単調な作業は一切なく、考えて行動をしなければなりません。全ての仕事が「社会貢献」になっており「居場所」や「やりがい」を得られやすい環境です。作業所に通い、仕事をして帰宅するまでがリハビリとなり、仲間づくりにつながっています。

小規模作業所ドリーム伏見

5つの方針

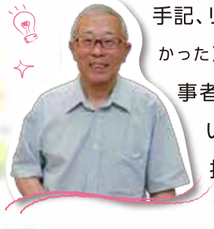
1. 当事者が主体の活動を実践
2. 当事者の働き甲斐のある環境づくり
3. 仕事を通しての社会参加
4. 互いに認め合い支えあう
5. 可能性を見つけ育む

喫茶事業

脳卒中障害者が店員を務める喫茶店を運営しています。調理や接客の他、新しいメニューの考案など、可能な限り当事者が主体となって活動できる環境を整えています。フェアトレードの珈琲豆や紅茶を使用することで、働きながら社会貢献にもつながっています。脳卒中障害者や家族だけではなく、一般のお客様も多く来店しています。障害者施設を身近なものとして受入れてもらい、脳卒中障害の理解を広める役割も担っています。

情報誌事業

脳卒中障害者が企画・取材・執筆をして情報誌を出版しています。脳卒中を発症した本人が、安心して出かけるための情報、当事者の体験談や家族の人の手記、リハビリや施設の情報など、自分たちが知りたい（知りたかった）情報をまとめています。難しい専門誌とは違い、当事者や家族の実態がストレートに伝わる冊子になっています。情報誌は年3回発行し、地域社会への情報提供、脳卒中の啓発を行っています。



フェアトレード・地産地消事業

脳卒中障害者が自ら選んだ商品を販売するフェアトレードショップ、地産地消商品販売を実施しています。どんな商品が店頭に並ぶとお客様が喜ばれるのか、季節に合わせたイベントの企画、他のフェアトレードショップの視察、店頭ディスプレイの工夫、在庫管理などを一貫して、当事者同士で話し合いながら運営しています。フェアトレードと併せて、地元愛知県の地産地消にも貢献するため、現地まで仕入や見学に出向き、様々な商品を仕入販売しています。

教室運営事業

脳卒中障害者が講師を務める教室を開講しています。当事者が講師を務めることで、片麻痺や言語障害がある脳卒中障害の人でも、安心して参加をすることができます。教室によっては、障害の有無に関わらず、一般の方でも参加することができるため、障害を越えた交流も斡旋しています。教室運営事業では、「趣味がほしい」「仲間をみつけたい」「自分に自信をつけたい」「リハビリしたい」など、それぞれが目的も持って参加しています。

[施設概要]

所在地 〒460−0003
愛知県名古屋市中区錦2丁目13−24先地下1階31番14号
（詳細は、特定非営利活動法人ドリーム所在地を参照）

開所日 月曜日～土曜日（第一月曜日、祝日を除く）
愛知県西部に警報が発令されている場合はお休みとなります。
その他、地面が凍結している等の理由により、障害者の移動に危険が伴う場合もお休みさせて頂きます。

定員 30名
開設日 2013年1月
事業概要 地域活動支援Ⅲ型